

令和7年度 第2回学校運営協議会

日時：令和7年11月25日（火）授業見学（本校附属農場）14：00～15：00

学校運営協議会 15：25～16：55

会場：大阪府立豊中高等学校能勢分校 会議室

出席者：10名

能勢分校会議室において、第2回学校運営協議会を開催しました。学校運営協議会委員6名、学校側からは准校長、教頭、課長補佐が出席しました。

2回目の運営協議会では、本校の附属農場で授業見学をしていただいた後、学校運営協議会要項に沿って、今年度の能勢分校の課題や方向性について議論しました。

○・・・委員の方の発言

*・・・本校職員の発言

1. 開会挨拶（准校長）

2. 協議

（1）「授業見学について」

- 生徒たちが非常に生き生きとしている。食のリアルを学べることは非常に良いこと。
- 仕事の一環で野菜作りや山の間伐を行っている。若者が農業に携わるのはいいこと。座学も良いが、自然や農作物に触れる授業はよい。将来何らかの形でプラスになればよい。
- 生徒が太陽の下、作物に触れることで自己実現や、内面から自分を問い直すことができるということにはなるほど。と思った。小学校では低学年は外での活動があるが、学年が上がるにつれ外に行かない傾向がある。将来農業関係に進む生徒は少ないかもしれないが、農業を仕事にしなくとも土に触った青春時代は貴重である。
- ブドウの剪定を授業で行うことに驚いた。生徒が生き生きしていてよい。高校生が土に触り、体験を重ねることはよいことだ。それをPRし活性化できれば良い。

（2）「授業アンケートについて」

*アンケートは年2回実施している。今回はその1回目。6月に行ったもの。項目は9個。各学年の結果と、全体の総括を示した。

- 1 学年：比較対象は昨年の1年生の2回目。今年の1年生は9項目すべて去年より高い数値となった。特に、授業計画と教材活用の項目は3.5を超えている。生徒のコメントからは、授業が楽しい。工夫があって理解がしやすい。などがある。これはICTの活用もあると思われる。
 - 2 学年：比較対象は1年時の2回目。つまり、同じ生徒集団。ほぼすべての項目で数値が上がっている。これは2年生からコースに分かれることで、自分の興味関心に沿った授業での学校生活が送れている結果と思われる。生徒のコメントも、授業が楽しい。自分にとって、意味のある授業だ。など、興味関心に紐づいていると思われる意見が見られる。
 - 3 学年：比較対象は2年時の2回目。2年生から3年生にかけては概ね数値が高くなっている。2年生からのコース別授業に深みが現れ、学びの充実を感じていると思われる。生徒のコメントも、毎日が楽しい。興味深い知識を得られる。といった意見が見られた。
- 学年平均：比較対象が1年前。結果として、昨年とほぼ同じような形になった。

参考までに、教員によるアンケートに係る振り返りシートを添付した。これは各教科、担当教員が少ないため、教員内で取り組みの紹介を行った。情報の共有、工夫の紹介を目的に、教員の教科を超えた横断的な情報共有を行っている。

(3)「系列の取り組み、進捗状況について」

* 9 ページに渡り、非常に詳しく書かれている。ご一読願う。

(4)「能勢分校の取り組み、課題について」

* 7 月から 11 月までの能勢分校の取組をざっくりとまとめた資料を提示。22 のイベントについて説明。

下記抜粋

7/11：課題探究GS 中間発表。大阪公立大学から伊井先生にお越しいただき、コメントと講評をいただいた。12月の最終発表に向け、ブラッシュアップを行った。

農業クラブ大会：大阪府連予選会、近畿大会、全国大会。予選を勝ち抜き、全国大会へ。近畿大会で優秀賞を受賞した生徒が全国大会で優秀賞。大阪府の生徒が全国大会で入賞するのは20年ぶりくらい。しかも総合学科の生徒が結果を残せたことはとても素晴らしいこと。

9/13：JA主催の有料プログラム。ブドウの収穫、ハチミツの搾蜜、瓶詰などの体験。運営や説明を生徒が行う。普段の学びを一般の人に生徒が還元。有料であることの意味を考えるように伝えられている。

11/3：能勢里山文化ゆめまつり。3年生が課題探究の一環で企画、運営に携わった。「のせかるた」を作成し、能勢町を町外の人にもわかりやすく知ってもらう取組み。他に、軽音楽部も参加。

11/8：大丸梅田店販売実習。2,3年生の食農流通コースの生徒が参加。当日の販売実習だけでなく、事前に大丸の販売員の方から、販売作法や接客ポイントなどを学んだ。

11/22：全国学生養蜂サミット。食農流通コースの2年生が二人参加。大学生も参加する大会で優秀賞を受賞した。

* 今年度は学外のイベントに積極的に参加するようにした。

(2)～(4)を説明後、ご質問ご意見等を伺う。

○農業クラブ、養蜂サミットはどのような形式だったか。

* 農業クラブはプロジェクト発表と意見発表の二部門ある。受賞したのは意見発表の部。7分間で取組んだこと、今後の目標などを発表する。ノセタイムスを参照。養蜂サミットは、本校の取組をポスターセッションでの発表。他に、出展ブースで取組をプレゼンした。22校が参加。優秀賞は日本大学の専門学部。全国的に高校生による養蜂の取組は少ない。

○フィリピンスタディツアーについて。生徒の負担はどの程度？企画運営は特定業者が？現地での経験は活かせるのか？指名性？希望者のみ？

* 各家庭約9万9千円。交通費、現地の食費、アトラクション入場料等すべて込み。本来は約20万円。㈱能勢・豊能まちづくりさんからの助成金の一部を利用。企画運営は、豊能町にあるオイスカと連携。オイスカのフィリピン研修センターに宿泊。それでも20万円で実施できることは非常に安価。現地での経験は課題探究などで活かしていく。将来にも経験として活かしてほしい。参加は希望者のみ。

○授業アンケート振り返りノートにある「ロイロノート」って何？

* 授業に活用するアプリの名前。授業で扱う暗記内容などを共有したり、宿題を提出したりする授業

支援システム。学校として導入し、教員の活用率も高い。

○高校生未来サミットはどのコースの生徒が参加したか。

*食農流通コース。

○食農流通コースの生徒は色々と学外イベントに参加しているが、ほかのコースはどうか。フィリピンも食農流通コースの生徒か。

*他のコースは、府外の取組よりも、地域との繋がりを取組を行っている。

フィリピンスタディツアーはコース関係なく参加している。他、例えば能勢里山文化ゆめまつりは対人支援コースの生徒。ノセタイムス1面を参照。

課題探究GS最終発表会のお知らせを、7グループが発表。地域の皆様も自由にお越しいただけます。お時間があれば是非お越しください。

○学外での取り組みが今までより多い。特に農業関係。高校で農業の体験ができるのはよいこと。ある会社の農業体験で、鹿の解体実習をおこなったとき、街育ちの子たちはびっくりしたが、能勢の子は普通にしていた。高校時に貴重な経験をしていたからと思われる。

*学外を取組は増えている。能勢の地を離れた越境体験を実績とし、生徒の活動を評価し進路につながってほしいと考えている。コンテストやグランプリなどに生徒を取組を発表するように取り組んでいる。動物の解体については食農流通コースの生徒は授業で鶏の解体を行う。授業で命の大切さを学ぶ良い機会となっている。日頃から、動物や命に関係する授業がある。

○確かに今年が多い。府外を取組も見られる。特に食農流通コースが活発に見える。オーストラリアの経験が全国大会の受賞につながるなど、学外の経験が実績につながる。これを内外にPRするといい。生徒が運営する能勢里山文化ゆめまつりとか。能勢に通うと「閉じる」イメージがあるが、逆にほかの学校では経験できない外に出る経験ができるということをアピールする。そのためにも外に出て、受賞してくるのは素晴らしい。が、他のコースの印象が少ない。食農流通コースの生徒がほかの生徒に刺激を与える仕組みはあるか。

*共通の授業もあるしクラスも同じ。交流はある。

○授業アンケート、学年が上がるにつれ、グラフが大きくなるのが見て取れる。先生方の努力のたまもの。新しいICTツールの活用が増えていることもわかる。先生方も苦労されたのでは。ただ、「生徒取組1」がどの学年も値が少し小さい。授業の予習復習は本人の意欲次第だが、以前、放課後に勉強する場がない、という課題があった。数値として相対的には悪くはないが、この項目はまだ伸びしろがあるのではないか。

*この項目は難しい。多くの生徒が家に帰ると勉強しない。宿題を出すとそれはやってくる。しかし、教員が課題を与えなくとも自分で取組むことが大切。場所として、17時までは教室が開いており、教員が利用している。学習アプリもある。スマホでもできる。しかし、やらない。勉強に対する意識に問題がある。自学自習はたしかに弱いと感じる。

○構造的に解決できればよいのでは。家に帰るまで。が基準かも。交通機関の問題もある。高校生が放課後集まってわいわいできる場所があるか？高校だけでは難しい問題と思われる。外部と連携して検討してもいいのではないか。

○授業アンケートの選択項目数は3？5？

*4。中間がない。

○中間がなくとも相対的にプラスのほうに数値が選択されているのはすごい。個人的に、生徒たちの個別の顔が思い浮かぶ。あの子たちがこの評価をしていると思うと、あの子たちはしあわせだな。と思う。

山下駅周辺で(株)能勢・豊能まちづくりさんが実証実験をしている。

*能勢町内での学びの施設として、能勢町が図書館をリニューアルしようとしている。生徒にもアンケート

をとってもらった。生徒たちが学べる場所が複数できるのはありがたい。

まとめ

○毎回、授業アンケートの結果に伸びがみられ、良い取り組みを重ねておられる。継続して進めてもらいたい。地域を越え、他の高校生、大学生との交流、販売実習、海外研修など社会と密にかかわることはぜひ進めほしい。それをPRし生徒同士の刺激につながればよい。高校生ができることは増えている。町全体では人口減や高齢化など問題がたくさんある。人も物もお金も限られている中で、高校生という存在は町にとって重要ではないか。いろいろと手が足りないところに、高校生が担い手となり、それが彼らの自己実現の場になれば。居場所づくりにしても、高校生活の課題に高校生が取り組むのはどうか。地域連携の一つとして地域の人の手を借り、成し遂げてみるのも良いと思う。

次回

第3回 令和8年3月4日（水）15時00分～16時55分開催予定